

## 説教題：天使の証言;神を礼拝せよ

聖書:ヨハネの黙示録 22章8～9節

＜口語訳＞

新約聖書408～409頁

ヨハネの黙示録 22章8～9節

＜新共同訳＞

新約聖書479頁

ヨハネの黙示録 22章8～9節

＜新改訳第3版＞

新約聖書502頁

ヨハネの黙示録22章8～9節

＜塚本訳＞

新約聖書823～824頁

主題:主イエス様から賜った聖霊の導き

によって主の弟子たちは、主の名による  
神の罪からの救いを宣べ伝えたように、  
私たちも、福音を伝えたい。

序論；

- ◇ヨハネの黙示録は、1章1節、「イエス・キリストの黙示」、神の御子イエス・キリスト様が、長老・使徒ヨハネに啓示の「神の国の奥義」、ローマ皇帝ドミティアヌス(81～96)時代の事。
- ◇ヨハネ黙示録1章は、御子の再臨信仰と愛、2章～3章は、7教会への手紙、4～5章は、羔羊礼拝、大讚美、6～13章は、聖徒、天使と龍、獣との戦い、14章は、小羊への大讚美、神無視の人々の裁きと信仰者への忍耐、15章は、金の怒りの鉢の神の裁き序曲、16章は、金の鉢の用意命令、獣の座の暗黒の裁き、ハルマゲドンでの龍と獣と主なる神との決戦、バビロン滅亡預言で、17章は、大淫婦と権力者の癒着、仔羊の勝利、18章は、バビロンの滅亡宣言と哀歌、19章は、大群衆讚美・長老らの礼拝、仔羊婚姻への花嫁の招き、神の大宴会、ハルマゲドンでの神の大勝利、20章は、サタンの千年間の幽閉、殉教者らの復活、千年間王座、サタンの滅亡、死と陰府の葬り、21章は、花嫁と3つの聲、都形成と生活基盤、22章6～7節が再臨の啓示です。

本論；

◇本日、ヨハネ黙示録第22章8～9節から主の使信に思い・心をとめます。

◆黙示録22章8～9節；ヨハネは、主のことば語った天使に神を礼拝せよと戒められた。

◇22:8～9；塚本訳；ヨハネ天使を拝せんとす  
「8 これらのことを聞きまた見たのはわたしヨハネである。そして(これを)聞きまた見た時、私はこれらのことを示してくれた天使を拝もうと、その足下に平伏した。

9 すると彼は(遮って)私に言う、『(いけない、)するな！ 私はお前や、お前の兄弟である預言者達や、この書の言を守っている人達の同輩である。(私を拝むな。)神を拝め。』

◇8節；「これらのことを聞きまた見たのはわたしヨハネである」(1:1、2、4、9)と、証言し、「(これを)聞きまた見た時」、「私はこれらのことを示してくれた天使を拝もう」と、「その足下に平伏した」と、天使の役目を承知しているヨハネが習慣的に礼拝したのです。

⇒「天使」は、裁きを告げ、又祝福を宣言します。

- ⇒ヨハネは、使徒、長老、預言者、牧会者として、  
**神のことば**を語る者を礼拝してはいけないし、自身も礼拝されたくなかったはずです。
- ⇒「**天使の姿**」が、きっと**神のことば**を告げる時、あまりに**輝いていた**もので、圧倒されました。  
**OS師**は、ヨハネの実直さを見ます。
- ⇒「**これらのことを聞きまた見たのはわたしヨハネである**」との証言は、「(これを)聞きまた見た時」、「私はこれらのことを示してくれた**天使を拝もう**」、「**その足下に平伏した**」という、一連の行為を振り返っての自戒の思いからの証言も含めています。
- ⇒ヨハネの経験から学ぶ私たちにとって大事なことは、どんなに**輝いていても、輝いておられる天の神と仔羊なる主**以外は、決して礼拝したり、栄光を帰してはならないということです。
- ⇒ヨハネは、自分の愚かさを記した上で、「**これらのことを聞きまた見たのはわたしヨハネである**」と、言っています。
- ⇒これが、**OS師**が言われる実直さでしょう。

◇ 9 節； 天使は、ヨハネの礼拝を拒否し、  
『(いけない、)するな！私はお前や、お前の  
兄弟である預言者達や、この書の言を  
守っている人達の同輩である。(私を拝む  
な。)神を拝め。』と、語ったのです。

⇒ 1 つは、人を敬い、尊敬することはあっても、  
天使が言った、『(いけない、)するな！私  
はお前や、お前の兄弟である預言者達や、  
この書の言を守っている人達の同輩で  
ある。(私を拝むな。)神を拝め。』を心  
にとめたいと思います。

⇒ 今 1 つ心に留めるべきことを OS 師が指摘して  
おられる事です。

⇒ ヨハネは、天使の証言から、「預言者」と認めら  
れたということです。これは、ヨハネ自身が、  
ヨハネ黙示録を神の黙示を受けて書いたと  
既に「ヨハネ」の名で、記している(1:1、2、4、  
9)こととも、一致します。

⇒ ヨハネ黙示録は、神が、天使を遣わし、ヨハネ  
に黙示・啓示されたものです(1:1～3)。

⇒ 黙示録は、礼拝を拒んだ天使証言であると共  
に教会の長老ヨハネ証言なのです。

**結論；**

- ◇ヨハネの黙示録は、1章1節、「イエス・キリストの黙示」、神の御子イエス・キリスト様が、長老・使徒ヨハネに啓示の「神の国の奥義」、ローマ皇帝ドミティアヌス(81～96)時代の事。
- ◇ヨハネ黙示録1章は、御子の再臨信仰と愛、2章～3章は、7教会への手紙、4～5章は、羔羊礼拝、大讚美、6～13章は、聖徒、天使と龍、獣との戦い、14章は、小羊への大讚美、神無視の人々の裁きと信仰者への忍耐、15章は、金の怒りの鉢の神の裁き序曲、16章は、金の鉢の用意命令、獣の座の暗黒の裁き、ハルマゲドンでの龍と獣と主なる神との決戦、バビロン滅亡預言で、17章は、大淫婦と権力者の癒着、仔羊の勝利、18章は、バビロンの滅亡宣言と哀歌、19章は、大群衆讚美・長老らの礼拝、仔羊婚姻への花嫁の招き、神の大宴会、ハルマゲドンでの神の大勝利、20章は、サタンの千年間の幽閉、殉教者らの復活、千年間王座、サタンの滅亡、死と陰府の葬り、21章は、花嫁と3つの聲、都形成と生活基盤、22章6～7節が再臨の啓示です。

◇神は、変わらない愛と思いやりの神です。

◇ヨハネ黙示録22章8～9節は、輝いている天使を見て、思わず、「天使のその足下に平伏し」、天使から、『(いけない、)するな！私はお前や、お前の兄弟である預言者達や、この書の言を守っている人達の同輩である。(私を拝むな。)神を拝め。』と語ってもらうまでは、自分の過ちに気づかなかったことを教えています。

⇒老練な長老ヨハネさえも誤った尊敬と礼拝を見誤ったことを日々心にとめておきたいと願います。

⇒人は、特定の人を尊敬すると、その人のことを過大に評価して多く語り、まるで偶像化しやすいものです。

⇒併し、誰でも、欠点があり、非難される行為がありますから、それを語らないで、尊敬するよい点だけを強調するのは、危険です。

⇒尊敬される人ほど、『(いけない、)するな！私はお前や、お前の兄弟である預言者達や、この書の言を守っている人達の同輩である。(私を拝むな。)神を拝め。』と、語るでしょう!!

- ⇒ヨハネは、ヨハネ黙示録を彼に**天使**が派遣し、**ヨハネ**に**黙示・啓示**して下さったものであると受けとめていました。
- ⇒**天使**は、『(いけない、)するな！私はお前や、お前の兄弟である**預言者**達や、この書の言を守っている人達の同輩である。(私を拝むな。)神を拝め。』と、「**預言者ヨハネ**」を提示してくれたのです。
- ⇒「**預言者**」としてヨハネは、**天使**に認証され、7つのアジアの教会の「**預言者・説教者**」として派遣されたのです。
- ⇒「**預言者**」は、**イエスのことば**、**神の言**を語り伝える者です。言い換えれば、**神の言**を取りつぐ奉仕者です。
- ⇒「**これらのことを聞きまた見たのはわたしヨハネである**」と、ヨハネ黙示録のヨハネの5回に及ぶ自分の名前を出すことは、1章の4回につづいて、ここが5回目です。
- ⇒ヨハネは、ヨハネ黙示録を**預言者**としての**自己証言**だったのです。
- ⇒「**怒り**」と「**輝き**」の両面を備えた「**天使証言**」を通して、ヨハネは**預言者証言**ができたのです。